

■今月の特選句

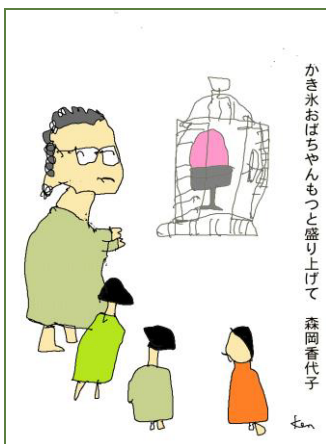
2021年8月



子子の字面の奇妙水たいら

百千草

「子子」を「ぼうふら」と読めるのは年季の入った俳人ぐらいなものだろう。ぼうふらがどんなに動き回っても水面が静かなのも不思議。



かき氷おばちゃんもつと盛り上げて

森岡香代子

子どもの頃の思い出だね。かき氷がだんだん高く盛り上がってくると子ども達は「もつともつと」と囃したて、おばちゃんは、おまけをしてくれる。



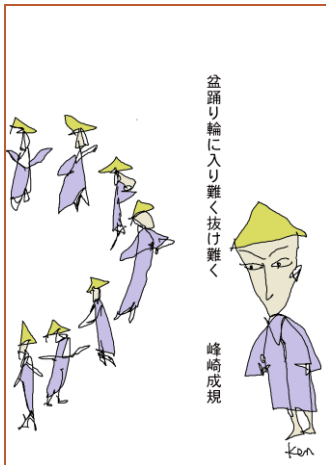
短夜や来し方行く末入り混じり

横山洋子

あれこれ思いをめぐらして短夜を使い果たし、眠れぬ一夜となることは誰にでもあること。短夜がことのほか短く感じられた夜を描いたか。

■今月の特選句

2021年8月



盆踊り輪に入り難く抜け難く

峰崎成規

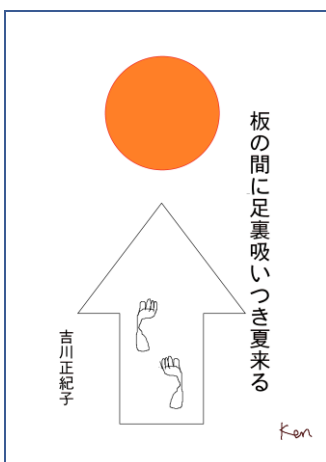
途中から踊りの輪に加わるのは難しいが、一度入った輪から抜けるのはもっと難しい。ゆっくりと動いているにもかかわらず、どちらもコツがいる。



屁理屈のよく出る口から枇杷の種

日根野聖子

枇杷の種を口から掌に受ける時、手品のように見えることもある。屁理屈が得意な人物が今日は枇杷の種を出したという可笑しさ。



板の間に足裏吸いつき夏来る

吉川正紀子

暑いので靴下をやめて素足になった。直に板の間を歩いてみると、足の湿り気が板に吸い付くような感じがする。この感触が夏の実感なのだ。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

ブサイクと侮るなかれ鬼虎魚 ・・・良く見りやかなり威厳ある顔	青木輝子
身に余る浮き輪かかへて下船の子 ・・・池江璃花子になつた気分よ	名本敦子
主催者は猫なり蚤の舞踏会 ・・・珍種希少な蚤を集めて	八塚一青
這へば立て立てば歩めよ昼寝覚 ・・・幼子なのか爺ちゃんなのか	柳 紅生
ゆっくりとやって来ました歩き梅雨 ・・・怠け癖ある走り梅雨かも	伊藤浩睦
空蟬や一步前進かも知れぬ ・・・二十四時間監視をせねば	稲沢進一
肩を出すただそれだけの夏が好き ・・・ワクチン接種のためではないが	谷本 宴
赤紫蘇に恋した梅の真つ赤つか ・・・青梅くんはうぶだからねえ	小笠原満喜恵
洗い髪夢二の女になりきって ・・・鏡の中の私にうつとり	井口夏子
「つるつる」で通じる昼餉冷素麺 ・・・咄家めいて所作もなかなか	田村米生
なんとなくお偉い響き御器かぶり ・・・由緒正しきお屋敷に棲み	土屋泰山
嘘つきし対価としての玉の汗 ・・・爽快感は得られませんぞ	小林英昭
田植すむのを待つてた水馬すすいすい ・・・昆虫界の羽生結弦か	梅野光子

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

梅雨前線めくれば下に蒼い空

扇風機胸をはだけて尻めくる

つばくろのつがひは間夫か与太話

夏休み下足脱ぎ捨てバカ騒ぎ

あり過ぎもなくとも困る水戦

A型の父はきつちり更衣

パスタ屋も江戸前寿司も小島さん

蟻の世界も一番は一の宮

ワクチンはにつこり二度目虹二重

梅雨に入り孫はSHISHAMOの「中毒」と

肌色はどの色と尋(き)く鴉の子

夏座敷よぶんな物は何もなく

螺旋の家が自慢の蝸牛

へぼ将棋につつき天敵一年坊主

男湯と女湯分け合う富士の山

白鷺に一定の距離空けられて

一列に渡る軽がもフェアウェイ

水がめの目高たうとう一匹に

雛幟今はそういふ子もありて

屁で起こす風呂のさざ波熱帯夜

立葵考へ過ぎて哲学者

雨の日や向日葵一日うつ向いて

上目使ひや玄関先のやまかがし

梅雨の明置き去りの雲はうつちやられ

帰省子へ父の見栄つ張り太つばら

紫陽花寺賽銭入る人少な

特大の届くメロンや値を知らず

南極に着陸間際昼寝覚

陰口も愚痴もサラリと鰻(うな)茶漬け

天牛は紙切りでなく髪切りよ

遠雷や走るかそれとも隠れるか

パラソルをくるりと見返り美人かな

天守閣横目にジョギング梅雨晴間

コロナ禍を赤蝮派とすつぼん派

青桐やちゃん君さんと綽名なく

源五郎がニュースのネタにNHK

紫陽花の群れなすまでの序曲かな

片蔭や鬼がくるまで待つてやる

電磁波の遠くなりたる滝の裏

相原共良

相原共良

相原共良

青木輝子

青木輝子

赤瀬川至安

赤瀬川至安

赤瀬川至安

荒井 類

荒井 類

荒井 類

井口夏子

井口夏子

池田亮二

池田亮二

石塚柚彩

石塚柚彩

石塚柚彩

伊藤浩睦

伊藤浩睦

稲沢進一

稲沢進一

稲葉純子

稲葉純子

稲葉純子

井野ひろみ

井野ひろみ

井野ひろみ

上山美穂

上山美穂

上山美穂

梅野光子

梅野光子

遠藤真太郎

遠藤真太郎

遠藤真太郎

大林和代

大林和代

大林和代

ふた取ればさくらんぼうが笑つてる
 且元の心や如何に桐の花
 青紫蘇の新芽を集め子育て気分
 薫風は天の仕掛けや癒さるる
 水瓶にプカプカ遊ぶ甜瓜(まくわうり)
 風死して脂肪腹をもてあます
 老臭を厭いもせずに蚊の来たる
 梅雨入や公園ランチ休みがち
 梅雨入やまずは食堂さがしなり
 夏休み坊ちゃん電車に乗りたいな
 太陽に向いてあいさつひまわりは
 夏バテにやどじょう汁よりスッポンよ
 約束の賞味期限来るメロン割る
 特大の西瓜抱き締め妻の腕
 たくらみを語る子どもら向日葵に
 若竹の青天井を目指しをり
 半夏生家鴨の池を縁取りぬ
 王道を行くと斑猫振り返る
 新緑を裏切りオレンジ列車行く
 乱切りのパプリカサラダボールの青嵐
 不貞腐れ二三人いて夏の空
 蛸壺に旨寝むさぼる運のつき
 ごきぶりを地球の後継者に指名
 筍の皮脱がす如妻の間ふ
 止まるたび水をへこます水馬
 ままごとのママはわんさと土筆摘み
 待つことに慣れてぐうたら蟻地獄
 繕ひし兄のお下がり更衣
 田植機の免許皆伝跡を継ぐ
 カルピスのもてなし受ける日焼けっ子
 コンビニの看板消灯燕の子
 ワクチンが良く効きそうな雨音
 喜寿のトンネル大きいものは通りませんよ
 カルシューム入りなら買おう右の脳
 天瓜粉叩けば皺のくつきりと
 コロナ禍や昔話にコレラ船
 バスで行く八月大名の城めぐり
 こわきもの夏の闇夜の黒マスク
 新語ほし出水では収まりきれぬゆえ
 副反応てふ言葉にも慣れ六月尽

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 北熊紀生
 北熊紀生
 木村 浩
 木村 浩
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 壽命秀次
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男
 高橋きのこ
 高橋きのこ
 高橋きのこ

プールへと急ぐかつては河童の子
 蟻地獄待てば海路もいのちがけ
 日本人であるうれしさよ鰻の日
 王位戦「勝負アイス」の午後三時
 日焼して現地の人に溶け込みぬ
 早苗田やソーラーパネルの偉そうな
 十薬や暮しを守る知恵をもち
 音楽が聴こえてきそう梅雨の蝶
 生命の強さ知ってる金魚かな
 オンライン塾居の孫の昼寝かな
 咳しても憚ることなし夏の畑
 投歌辞め昼寝の枕高くする
 七月の選挙いつもの消去法
 夏休みプッチンプリン用意して
 痩せ脛を蟻が登攀(とうはん)競ひをり
 人避けるコロナマスクにサングラス
 サングラスかけるもこはいもの消へず
 雨宿り軒先に蚊と吾ひとり
 トマトだけ自転車籠に残りけり
 衣脱ぎアロハシャツ着る御住職
 極楽往生の蛸を舌鼓
 ペア密で回らぬ皿の鮎つまむ
 親密に飲めぬ止り木冷奴
 風鈴を一声叱る隣り人
 赤富士を朝飯前に食べる月
 痛む背の一キロ歩く梅雨の汗
 薄衣下着の色も醸し出し
 短夜の椀ひとつ浮く洗ひ桶
 行くだけで疲れる医院夏なかば
 水無月のどつと汗する防災服
 腐草螢となる変異株
 夕立に恋の雫を貰ひけり
 正確に梅雨明け告げるシャーシャーシャー
 東南北白の入道雲発す
 前線を押し上げ移動性ビール
 捕つちやだめ新種指定の油虫
 父の日やいつも仕送りありがたう
 男梅雨ゲートボールにあるいちめ
 金閣銀閣文化財にも夕立来
 徳川家の栄枯盛衰古茶新茶
 水馬金の鳳凰跳び越ゆる

竹下和宏
 竹下和宏
 竹下和宏
 龍田珠美
 龍田珠美
 龍田珠美
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 名本敦子
 名本敦子
 西をさむ
 西をさむ
 西をさむ
 花岡直樹
 花岡直樹
 花岡直樹
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 久松久子
 久松久子
 久松久子

過去の鬱未来の不安梅雨の夜

すはすは匂ふ梅雨の夜の湿布薬

大西瓜前に試案のおちよぼ口

コロナ禍の星より仰ぐ天の川

カビとても生きとし生くるもの

梅雨晴天今日コロケの特売日

梅雨明けて片付け着手ごみ屋敷

暑に耐へて頭の中がごみ屋敷

万緑や絵心無きを悔やみけり

夏山野コロナ蹴飛ばし遊びたや

薫風やウィズコロナの空吐息

濃紫陽花水の器に浮かせやる

玄関から入る藪蚊を叩き出す

クーラー室外器わたくしあなたが嫌いです

弱虫を武将に変へる捕虫網

大時化へ白紙委任を出す海月

ちよつとそこ銀河の端を踏まないで

次の脚どこへ下ろさう沙羅落花

にべもなく蚊を打つ迅さろう速さ

炎天のオレンジの電車熱発か

腕まくり花火を仕切る父さんの

落蟬にベルを鳴らせど通せんぼ

浮かれ猫声色うまき大歌舞伎

歯抜鶏喜劇役者の貌となり

蒲の穂や散歩の犬の雨合羽

老兵はまだまだ去れず夏落葉

瓜割つて夫は妻に従へり

影といふ影を失ひ夏の昼

水盤の絵柄の魚泳ぎ出す

選びしはウォッシュャブルの夏帽子

日陰れば鳴きやむ蟬の不貞腐れ

皺がつきやすくて好きさ麻の服

顔パスで水だけ梁を越えてゆく

今治がいいと子が言ふ汗拭ひ

擦り切れるほどのギャグなり父の日よ

山蟻の柔よく剛を制しけり

脳疲労発句のできぬ梅雨の夜

葉桜にすぎるつがいのメジロかな

祈りしやコロナ患者の回復を

日根野聖子

日根野聖子

廣田弘子

廣田弘子

廣田弘子

藤森荘吉

藤森荘吉

藤森荘吉

細川岩男

細川岩男

細川岩男

南とんぼ

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

椋本望生

椋本望生

椋本望生

向田将央

向田将央

向田将央

村松道夫

村松道夫

村松道夫

百千草

百千草

森岡香代子

森岡香代子

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳澤京子

柳澤京子

柳澤京子

忙しなく土曜日曜毛虫焼く

蓮の葉に似合いの言葉銀の雨

暑さ負け砂にうつ伏す駝鳥の子

セロ弾きのイーハトーヴで昼寝かな

ひるね姫猫のキッスで目覚めたり

目覚めしも夢の途中のカンパニユラ

紫陽花が元祖にあらむアフロ髪

睡蓮の大乗菩薩御座所かな

蓮葉(はちすば)の雨転がして玉を産み

耐用年数過ぎて頑張るクーラーよ

洗ひ髪その香ここにもあそこにも

朝ではないとやうやく自覚昼寝覚

えにしだをくくり疾走のオートバイ

おほでまり髪に手に触れ駐輪場

公園のフェンスに鍵と昼顔と

五輪とは何のことかと柿若葉

菜園のきゅうり揃って曲がりけり

採る人もなき里山の枇杷熟るる

先頭は一粒の雨暴れ梅雨

余生など毛ほども無けり蛍飛ぶ

酒三献ちちろ相手の地べた飲み

大昼寝すべてコロナの所為にして

蜻蛉生まる朝の教室大さわぎ

療育の日誌ずつしり蝸牛

サーカスのライオンにべそ夏休み

雨蛙天気占ふ明日は晴

三本指平和勝ち取る意志の汗

山雀の鳥語解きつつ米を研ぐ

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山田真佐子

山田真佐子

山田真佐子

山本 賜

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子